社団法人　工学院大学　校友会

第107号　校友会報　34巻1号

昭和61年4月

八王子校舎5号館群模型

もくじ

○ご挨拶……足立　剛一　表紙2
○校友会の皆さんへ……高山　英華…1
○教務部長となって……小野寺直樹…2
○松下芳男先生と校友会……遠藤　鎮雄…2
○支部だより……3
　福島県支部・日本電気支部
○近況報告・学校法人……5
　・大　　学……6
　・高等学校……7
　・専門学校……8
○賛助会費徴収のお願い……9
○校友会各支部報告……10
　総務部・財務部・企画部・事業部・組織部・広報部
○学園の近況……広　報　部…13
○第40回評議員会・第30会総会開催のお知らせ……14
○昭和60年度事業報告書……14
○昭和60年度収支決算書……15
○昭和60年度財産目録……15
○昭和61度事業部計画（案）……16
○昭和61年度予算書（案）……表紙3

ご　挨　拶

校友会　会長　　足立　剛一

陽春の候、会員諸兄には益々ご健勝のことと御慶び申し上げます。平素は校友会の運営にご協力を賜りましてまことにありがとうございます。

さて、４月１日付で私が前島会長のご推薦により今度会長という重責を担うことになりました。ご承知の通り過去百年の歴史になかった大きな諸問題が山積しております。今後は多くの会員諸兄のご理解とお力添えを仰がなければなりません。何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、昭和62年10月31日は学園創立百周年の記念日にあたります。すでにご案内の通り記念事業として新宿校地の再開発事業に伴う学園将来計画要綱の答申が今年２月５日付にて伊藤学園将来計画委員長から高山理事長に報告され、理事会並びに評議員会等の機関で審議の上承認されました。申すまでもなくこの百周年事業は学園を再構築し発展せしめるべき機会であると思いますがその最大の目的は学園の使命目標を確立し、さらに教育と研究の質的充実と向上を計ることであると思います。新宿校地の再開発はこれらの目的を達成するためのものであると同時に学園全体が将来にわたり私学として安定した経営が行われることが基本であり、このような条件を満たすようにしなければなりません。学園にとって新宿校地は最大の財産であり、私達の先輩が百年の歴史の中で営々と築いて来たこれらの校地を今いかに活用するかは将来を左右する最も大事なことであると思います。学園は法人、大学、高校、専門学校等のすべてが一体であり、これらの全体を発展させることが真の学園の発展であると思います。これに伴っていま創立百周年記念事業委員会及び募金委員会が設置されこれらについて検討されております。すでに校友会としてもそれぞれの委員会に委員を推薦しており、今後校友会としても実行委員会等を設置することになると思います。

今後、これらの記念事業につきましては多くの会員諸兄の幅広いご協力がなければ目的も達成することはできません。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

第７回全国大会（千葉大会）開催のお知らせ

事　業　部

第７回全国大会が、今秋下記の通り千葉県船橋市で開催されます。全国大会も、前回の江の島大会についで第７回目ですが、今年は本学園創立100周年を昭和62年に控え、都心型学園将来計画の具体化へ向けて全学園の一体化を必要とする年でもあります。

そこで今回は前回に引続いて近年すばらしい躍進を遂げる千葉県で開催し、関東近県の会員の出席しやすい、又学園の諸先生方と卒業生との交流を深めやすい船橋に会場を設定致しました。ディズニーランド、国立歴史民俗博物館、成田山新勝寺等の見学コースも予定しております。

各支部・同窓会、お誘い合せの上、一人でも多くの参加をお願い致します。

記

1　日時　昭和61年９月27日（土）28日（日）

2　会場　千葉県船橋市浜町２－１－１　〒273
　　ホテル・サンガーデン　ららぽーと
　　0474（31）７５３１

3　受付13時、開会14時、
　　参加会費（一泊）18,000円

詳細は、校友会本部へお問い合せ下さい。

03（342）２０６４

校友会の皆さんへ

工学院大学理事長
高山　英華

校友会の皆さん、私が学校法人工学院大学の理事長を引き受けてから、はや５年の歳月が過ぎ去りました。工学院大学はその発祥の地、築地に工手学校が創られてから、何時も東京帝国大学の工学部とは特別の関係にありました。私の恩師であった元総長内田祥三先生も何かと工学院大学のお世話をしておられたようでありました。

私は工学院大学に来てから、先づ主として八王子校舎の整備拡充に努めました。すでに校地内の主要道路には下水施設を整備して、近代的浄化槽によって、中水道方式を導入して運転を続けています。

また工学院大学後援会の寄附によって学生の部室棟の新設や校費によって近代的な三号館製図棟も完成しています。さらに１号館や２号館の改修や高等学校の製図室などの整備も行ってきました。

富士吉田の校地内にあった農道の整備など多年の懸案であった土地問題も、県、市との交渉で円満に解決しています。そして、いよいよ新宿校舎の再開発にかかる時期となりました。

これからは、すでに理事会や評議員会などで決定されている学園将来計画の大綱で定められた方針によるもので、現在は将来計画の要綱の答申を受けて、実行段階に入っています。

これらは、新らしい物的施設はもちろん、学園の将来の研究、教育など各般の方面に渉る新しい方針を定めたものであります。

現在は、八王子校舎の一層の整備拡充計画を推進しており、５号館から11号館に及ぶ実験棟を八王子の丘の上に建設中で秋には完成します。

新宿では我が国はじめての都心型高層大学を現在の校舎を再開発して創る計画を進めています。

このために学園内に新宿再開発本部を設け、私が本部長を兼任して、学園内外の多くの方々の協力を得て万全の体制をととのえています。

また、昭和62年が本学園の創立100周年に当たるので、100周年記念のために、記念事業委員会と記念募金委員会を発足させて、具体的な活動に入っています。

このように、学園は創立以来、最も重大な時期にさしかかっているといってもよいでしょう。

新宿の再開発計画は、現在の新宿での授業を続けながら行うもので、むずかしい計画でありますが、今の校地をもっとも有効に活用して行います。

まず校地の北西側に超高層の学校棟を建て、そこへ現在の学校の機能を移転させ、現校舎をとりこわした上で、そのあとに学校とそれにふさわしい機能、内容をもった、第二の超高層建築を建てるという方法をとります。いま、国、都、区などの各関係方面と協議をかさねながら、その計画案をねっている段階です。

日本では今後21世紀に向って更に新らしい技術革新の時代に入ってきています。また臨時教育審議会も新らしい思い切った制度の改革を含めた答申を出すことになっています。

校友会の皆さんもさらに一層の自らの組織の充実と学園への御協力をお願いする次第です。

私立大学、その他私立学園の前途に必ずしも楽観をゆるさない状況にあります。

アメリカなどの私立大学は、その財政的基盤は次のような分野によって構成されているといわれています。１）基金および各種有力な記念財団の寄附、２）校友会の財政的精神的援助、３）入学金、授業料や父兄の援助などによってほぼ同じような割合で構成されているようです。もちろん日本の大学が皆そのような財政的基盤に立っているわけではありませんが、本学園は殆んど授業料や入学金、父兄の援助などによってその経営の大半をまかなっています。経理担当の冨子常務理事はじめ財政的運営にたずさわっておられる方々の献身的努力によって、どうにか運営を続けている状態です。

新宿再開発計画も土地の有効利用によって学校財政に負担をかけないような方法を必死になって考えているところであります。この様な状況にありますので、本学園における校友会の今後の発展は、物心両面において学園にとって重大な問題であります。

100周年記念に当たるこの機会に、その校友の名簿の整理などを通して、全国的な職域別の組織を確立して、社団法人としての立派な協力団体となることを重ねて切望するものであります。

教務部長となって

大学共通課程
小野寺　直樹

わたしは昨年４月から教務部長を務めることになり、以来１年が過ぎようとしている。また10月の学園創立記念日には、25年の永年勤続者のひとりとして表彰していただいた。この表彰の方は予定のことであったが、教務部長はまったく予定外であったことは言うまでもない。したがって、このふたつのことが同じ年に重なったのは単なる偶然に過ぎないのであるが、いまあらためて考えてみると、わたしにとってこのふたつの結びつきは、単なる偶然以上の意味を持つように思われてならない。

工学院大学のこの25年間の変遷を思い、その間に１教員として大学のためにどれほどの貢献をなしえたか、このように反省してみるとき、わたしの永年勤続表彰には少なからず苦い味が含まれていると言わざるをえない。つまり、心のどこかに何となく罪の意識を持ちつづけているのである。校友のみなさんからも厳しい批判をうけている大学の現状に、わたしなりに責任を痛感するからにほかならない。

このような心境にあるとき、大学の要である教務部長を務めることになったことは、偶然をとおり越して何やら運命的なものを感じると言ったら大げさに過ぎるだろうか。わたしはいま、いくらかでも罪滅しの機会を与えられたと考え、もとより非力ながらもこの重責に全力をあげて取りくんでいるところである。

さて、就任早々の第２部募集一時停止をはじめ、学園将来計画の要綱作成にも加わったりで、この１年間はまったくあわただしく過ぎようとしている。そして61年度は、懸案の第１部学生定員増の文部省申請をおこない、さらには最大の課程として、学園将来計画における大学の具体的な実行計画に取りくまなければならない。もちろん大変なことは覚悟のうえだが、ぜひやり遂げねばと意を新たにしている。

松下芳男先生と校友会

高等学校長
遠藤　鎮雄

工学院大学の教授として約20年間つとめられた故松下芳男先生は、反戦思想の故を以って職業軍人の地位を失い、以後大杉栄や安部磯雄等との交りを深くして社会運動家と成り、更には明治軍制史の研究において第一人者になるなど、異色の閲歴の方であった。その先生と校友会とのかかわりについては、今日では知る人も少なくなった。先生から多くを学ばさせて頂き、またこの会に古く関係した私として、その事情をここに記し、本会の功績者としての松下先生を記銘し、喧伝しておきたくなったのである。私なりのいささかなる鎮魂の儀でもある。

昭和31年の４月、校友会に「学友部」というものが新設された。「在校生に対して校友会の実状を認識させること」を主目的に活動する部署であったのだが、そのことに止まらず、校友会と学園との関連諸問題の協議調整機関としての大変な責務を荷なったのである。部長副部長は学校側からということになって、部長になったのが松下先生である。先生はその後４年間この任に当られた。

校友会は会議数が多く、しかも長時間に及ぶことで定評があったが、先生は怠らず精励され、しかも常に積極的に振舞れた。創見を吐き直言し、難問の処理解決にまことに熱心であった。だから校友からも尊信され、名実ともにこの部の使命は達成された。初代名学友部長松下芳男、校友会はこの人を忘れてはならない。

ところがこの松下先生が、校友会の分断をはかって学園同窓会の創設に、主導的役割を演じたとして、残念ながらその悪名の記憶の方は専らである。この事については「よかれと思って企てた改組案が、大失敗になったということになる」(校友会報)という先生の述懐を、その通りに受取るべきである。この辞は弁解でも変節でもない。先生は褒貶にこだわらず、また正直な方であった。

ところで今の校友会に学友部が必要かというと、これは分らない。ただ松下先生のような逸材の必須なることは論を俟たず、先生を偲ぶの念いよいよ切である。

□支部だより□

第５回福島県支部 昭和60年度総会報告

福島県支部
支部長　菊地　忠雄

梅雨明けの７月20日深緑に映えるここ福島市土湯温泉ニュー扇屋において開催された県支部名簿登録会員86名（うち出席12名、委任出席28名、宛名不明12名）により総会の成立を宣言した。

総会は高村議長を選任し支部長の経過報告、昭和60年度事業計画の提案、支部規約による役員改選を行ない約３時間に亘り審議を重ねみのりある成果を得て終了した。経過報告と事業計画の概要は次のとおり。

（１）経過報告の概要

１．支部活性化特別分科会（本部組織部）のアンケート提出について

２．昭和60年度工学院大学後援会、地方父母懇談会の組織と当支部との関連について（尚８月３日の山形、宮城、福島３県の父母懇談会には当支部より高村事務局長に決定した。）

３．賛助会費の支部納入状況について（この内容は全会員が１人５万円を賛助会費として納入すること、校友会の重要な財源である。）

４．昭和59年度並びに60年度校友会本部の決算及び予算、事業計画概要の説明報告

５．59年10月８日第１回賛助会員懇親会及び創立90周年記念事業のあらまし

６．59年度本部理事会において取り上げられた案件のうち

①学園将来計画について

②学園創立100周年記念の取扱い方

③全国大会（江の島大会）について

④其の他本部組織確立について

（２）昭和60年度支部事業計画と方向

１．支部運営について第４回総会で決定した事項の再確認

①支部会員の点検確認と潜在会員の発掘については会員点検の推進

②第６回総会を郡山方部で開催する。

③支部規約第13条による60年度支部会費は1,000円とし方部長がまとめる。

④支部組織の広域運営（ブロック化）はこれを推進する（支部長会議議題）。

２．賛助会費の取扱い及び納入については各会員の自覚において夫々早急に納入する。

３．学園将来計画については当支部は先に意見書を提出したが当初計画された新宿校地再開発を基本とする。

（３）役員改選について

①支部規約第６条及び第８条により決定を見た。

支部長　菊地忠雄（再）
副支部長　穴戸孝雄（再福島）
〃　三部嘉弘（〃郡山）
〃　君塚安雄（〃いわき）
地区部長　穴戸敬三郎（再福島）
〃　稲葉英雄（再郡山）
〃　渡辺亀美（新会津）
〃　桜堂和久（再相馬）
〃　大原　馨（〃いわき）
〃　藤田邦昭（新県南）
事務局長　高村　劼（再福島）
（会計兼務）

②会計監査　渡辺良直（新福島）
石井国雄（〃福島）

第５回昭和60年度の支部総会は以上のとおり終了したが今回の総会には校友会本部組織部より激励とご芳志を賜わった事を特記してご報告に代えたい。　以上

職域支部の発足にあたって

日本電気支部
支 部 長　江袋　林蔵（電Ⅱ35卒）

このたび職域支部として校友会支部の仲間入りをさせていただくことになりました。総勢70余名ですが職域の特質を生かして頑張りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

校友会支部の構想は、入社して来る後輩が顕著に増え始めた何年か前から有りましたが、昭和59年に先ず親睦会という事で発足し、会則や連絡網の整備、それに最も肝賢な同窓諸氏の関心の有無を確認しなから準備を進めていましたので、設立申請が遅れていました。幸い同窓諸氏も校友会支部設立に大きな関心を持っていて準備も順調に進んでいるところへ校友会事務局から、在校校友の先生から知らせがあったという事で、認可申請につきアドバイスを載き、早速申請させていただきました。程なく、先般理事会審議を通過したとのお知らせをいただき、発起人以下、大きな関心をお寄せいただいた先生方や校友会当局の方々に感謝申し上げると共に、今後の活動に大きな責任を感じている次第であります。諸先輩及び各支部各位には、今後共よろしくご指導の程お願い申し上げます。

私共の支部は、職域の特性から、勤務地別の地区割の組織を作り、各地区から幹事と副幹事を各１名宛選任し、幹事会を組織しています。会長と副会長は、幹事会にて会員中から選任委託し、正副幹事長は幹事会の互選という形をとることになっています。庶務・会計は幹事の中から選任されます。勤務地別の地区は現在８ヶ所有り、その他に関連企業の参加者もあります。各会員は業務多忙で、毎回の会合に出席する事は不可能ですが、何回かのうちには誰かが出ている筈というような考え方で会議招集を行なって来て、比較的良い成果を得ています。

会員の皆さんは、同窓生相互の連絡と親睦を望んでおり、そのような行事を通じて母校とのコミュニケーションを希望しております。何と云っても、母校は卒業生にとっては心の故郷であり、その発展はＯＢにとっても誇りであり心のよりどころである訳です。又、新人の後輩社員諸君への良き相談役としてもお役に立てる訳で、このようなことを通じて、本学の評価も高まり、また母校とのきずなも深くなっていくものと思います。我々ＯＢは、学校が働きかけてくれることを期待して待つ、というよりも、手をつけられる範囲の中で先輩と後輩のきずなを深め乍ら学校に働きかけるという事を考えるべきではなかろうか、と考えています。このようなことで、母校と校友会の発展のためにいささかでもお役に立てればと一同念願している次第であります。

尚、この機会に当支部から電気同窓会に、杉沢重雄（電44卒）副として松為迪夫（電子40卒）の両名を参画させていただくことになりましたのでどうかよろしくお願い申し上げます。また、ご参考迄に当支部役員の氏名を次に記します。

支部長	江袋　林蔵	（大電・Ⅱ35卒）
副支部長	田中　芳朗	（大電・Ⅰ37卒）
幹事長	佐藤　晃市	（院電・Ⅰ41卒）
副幹事長	松為　迪夫	（大電子Ⅰ40卒）
会　計	杉沢　重雄	（院電・Ⅰ44卒）
	橋本　勝四郎	（大機・Ⅰ45卒）
庶　務	井村　治道	（大電・Ⅰ43卒）
	天宮　伍朗	（大電・Ⅰ42卒）　（以上）

支部設立準備会出席の職域校友各位
（昭和59年12月1日　於母校８階会議室）

原　稿　募　集

工学院大学校友会会報は毎年４月に発行しております。ついては下記により原稿を募集致します。

記

1. 随筆、紀行文、一般向きの論文
2. 各支部の情報
3. 叙勲その他校友会会員、卒業者の情報
4. 提案、その他

以上400字詰原稿用紙使用（横書き）に２枚又は４枚で、必要に応じ図面、写真を添えて下さい。

広　報　部

□近　況　報　告□

◇学校法人◇

○本学園関係者の叙勲等受章について（昭和60年１月～12月）

遠藤鎮雄高等学校校長が八王子市市民文化表彰（10月１日付）、西野　治元電子工学科教授が勲三等旭日中綬章を各受章しました。

○寄付受贈等について

下記のとおり寄付がありました。

校友会から昭和59年度大学、高等学校及び専門学校卒業式諸費用として60万円。機械工学同窓会、応化会、電気同窓会及び建築学科同窓会から昭和59年度大学卒業式諸費用として160万円。建築学科開設25周年記念事業実行委員会から奨学基金として200万円。アルプス電機㈱から衛生放送受信システム一式、太平洋工業㈱からコンピュータ制御用インターフェイスセット、八王子校舎前庶務課施設係長内田　一氏から植木、日本ディジタルイクイップメント㈱からレインボー100システム一式、日本ビジネスコンピューター㈱からＩＢＭマルチステーション5550一式、学園生活協同組合から武藤工業平行定規２台。故坂本雅夫名誉教授の令夫人からスクーリングサイクルエンジン購入費用として20万円、故根岸政一元工学院長ご子息故政道氏令夫人から図書、理学電機㈱からＸ線回折装置ガイガーフレックス2011型。大学後援会から大学卒業式祝賀会援助金として500万円、部室棟部室内部改装工事費として475万円、富士吉田セミナー校舎テニスコート建設費として2,150万円、軽井沢学寮フェンス工事費として35万円及び富士吉田セミナー校舎用として折りたたみテーブル、硬式テニス用ラケット、ボール費用として500,600円。高等学校ＰＴＡから昭和60年度高等学校入学式費用として30万円及びビデオデッキ、カラーテレビ各１台の現物寄付。高等学校後援会から生徒会室新築工事費として496万円。高等学校昭和59年度卒業生父母一同からカップボード１台。１部体育会ボクシング部ＯＢ会からボクシング部練習場として仮設プレハブ１棟、同ヨット部からヨット購入資金として628千円。

○工学院大学学園振興資金応募状況について

12月31日現在

払込件数	375件（前年時期　506件）
払込金額	32,901千円（前年同時期　61,735千円）

ただし、大学在校生父母の寄付金　31,251千円）

○専門学校夜間部に建築設備科新設について

建築設備技術者に対する社会的ニーズが高まっていることなどにより、専門学校夜間部の建築設備科（入学定員40名）を昭和61年度から新設する。

○学園発祥の地記念碑移設について

木村屋総本店社屋再建のため、学園発祥の地記念碑を一時撤去していたが、木村屋ホーコビル竣工に伴い、同敷地内（中央区築地７丁目３番１号）に記念碑を移設し、昭和60年４月22日修祓式を挙行した。

○八王子校舎３号館について

１階303席講義室２室、２階共通製図室・絵画教室、３階建築学科製図室を収容する３号館を建設、昭和60年３月竣工した。

３号館の概要

床面積	１階	1,106.71㎡
	２階	1,317.75㎡
	３階	1,379.56㎡
	合計	3,804.02㎡
建物規模	地上３階建	
構　造	鉄骨鉄筋コンクリート造	

○高等学校生徒会室について

生徒会室の跡を応接室、小会議室に改修して利用するため生徒会室をプレハブで新築、昭和60年７月竣工した。

生徒会室の概要

床面積	29.81㎡
建物規模	平家建
構　造	軽量鉄骨造

八王子校舎整備拡充計画に基づいて、上記建物の他に現在、実験室・研究室等を収容する５号館（鉄骨鉄筋コンクリート造、地下２階地上９階建、延床面積 5,956.2㎡）、10号館（鉄筋コンクリート造、２階建、延床面積322.9㎡）の建設が進められており，昭和61年７月竣工予定である。

また、その他に６号館、７号館、８号館、９号館、11号館の実験棟の建設が引続き予定されている。

◇大　学◇

★昭和60年度卒業式挙行

昭和60年度学部卒業式および大学院学位授与式は、3月22日に京王プラザホテルのコンコードボールルームにおいて多数の来賓、父母、教職員参加のもとに挙行された。

新らしい門出を祝って北郷学長から「次代への期待」の式辞につづき、学園将来計画および新宿校舎再開発計画の進行状況等が話され、卒業生（1,368）人が学園の将来を夢見、また日本の科学技術の次代を背負う有為な社会人として学窓を巣立っていった。

また卒業式終了後は、恒例となった卒業記念祝賀会が同一会場で行われた。学長並びに大学後援会の相野谷会長の挨拶につづき校友会々長代理長坂副会長の乾杯で進行され、「都心型大学の構想」をもつ本学にふさわしい華やかな雰囲気であった。

なお、卒業式および祝賀会開催に当っては校友会、同窓会ならびに大学後援会から多大の費用援助をいただき厚くお礼申し上げる次第です。

★昭和60年度卒業者数および就職状況について

卒業者数と就職状況を示すと別表のとおりで、卒業者は第1部1,190名、第2部148名、大学院修士課程30名、合計1,368名で在籍者数に対する卒業率は第1部71.5％、第2部38.5％であるが、卒業論文着手者数に対する卒業率は第1部97.8％第2部88.0％となっており、例年とほぼ同様の傾向である。

就職状況は今年度も例年通り好況で、1・2部の就職希望者（1,281名）全員が就職を決定した。

60年度の理工系大卒の労働市場は近来にない学生優位の売手市場であった。そのため採れない企業の嘆きの声が大きく聞えた。しかし、学生優位とはいえ、採用側のフィルターは厳しく、特色のない学生は目指す会社へ入れない例が目立った。

一方中堅クラスや学生の注目度は比較的低いが求人意欲の高い企業は6月頃から触手をのばしはじめ、その結果本命企業を受ける前の度胸試めし的「体験面接」を助長させ、自由応募による重複内定が近年になく多い結果をもたらすことにもなった。

求人及び就職状況は下表のとおりであるが、特に求人で目立つのは、情報処理を中心とするサービス企業の増加と女子への期待度が年々高まっていることである。

一方学生側は、社会の趨勢から安定志向とネームバリューのある大手企業への就職希望が強まってきている。

(1)昭和60年度求人状況（　）内前年度

求人会社数（規模別）大企業　1,463社（1,318）
中企業　2,660社（2,453）
小企業　1,576社（1,471）
計　5,699社（5,242）

求人延件数　15,078件（12,771）
求人延人数　16,707人（16,320）

(2) 昭和60年度進路状況

科	卒業者数	就職登録者	進路内容 一般企業	教員・公務員	自家営業	進学者	その他
機械	316	305	280	9	1	8	7
生機	55	54	53	1			
工化	152	141	117	8		10	6
化工	108	100	88	4	1	3	4
電気	202	202	184	5	1	2	10
電子	156	150	140	1		3	6
情報	98	97	93			4	
建築	251	232	191	8	2	9	22
合計	1,338	1,281	1,146	36	5	39	55

就職企業規模別内訳　大企業　66％（前年度60）
中企業　24％（前年度27）
小企業　10％（前年度13）

★昭和61年度入学志願者状況について

昭和61年度学科別入学志願者数・合格者数

学科	定員	志願者	対前年度増・▲減	合格者
機械系学科	180	4,095	▲ 42	554
工業化学科	80	1,790	196	275
化学工学科	50	617	▲ 121	115
電気工学科	90	2,543	665	350
電子工学科	90	3,831	200	614
（電子工学コース）		（1,930）	▲（205）	（316）
（情報工学コース）		（1,901）	（405）	（298）
建築学科	150	3,044	596	506
合計	640	15,920	1,494	2,414

（注）第2部は昭和61年度から学生募集も一時停止した。

61年度の本学志願者数は前年に比べ1,496人増加し、増加率では10.4％増である。5年連続の志願者増となった。増加率は57年度17.5％、58年度27.6％、59年度20.4％、60年度4.8％、そして61年度10.4％。ちなみに、5年前の56年度）の志願者数は7,631人であったため、今年度の志願者数15,920人は、5年前に比較して8,289人（108.6％）増で、過去5年間で、本学の志願者数は2倍を超えたことになる。

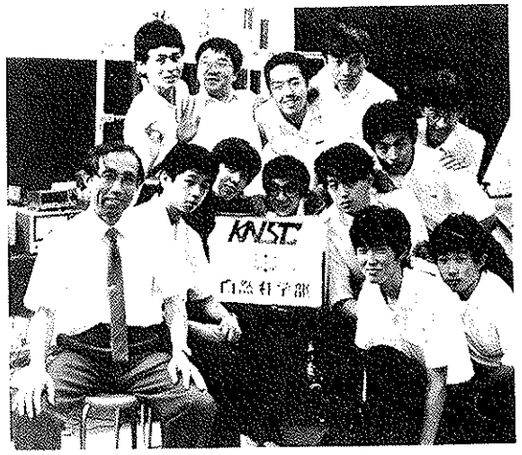
★大学後援会61年度父母懇談会について

大学後援会全国支部長会議が61年1月25日（土）に新宿校舎で開催された。大学から学長、常務理事が出席して大学の近況および学園将来計画について報告、説明をした。全国各支部長からは活動状況と今後の活動方針等について報告があり、次いで本部から61年度父母懇談会日程案が示され、5月17日北陸支部を皮切りに11月16日南九州支部まで全国22支部で開催することが決定した。各支部では校友の方々との交歓をとの声も多く、今後とも校友の方にはご支援、ご協力をお願いいたします。

（教務部）

◇高等学校◇

☆自然科学部の日本学生科学賞受賞



既に新聞・テレビ等でご承知の校友もおられるかと思いますが、本校の自然科学部は年来の念願がかなって、日本学生科学賞中央審査会の物理部門で文部大臣奨励賞を受賞しました。出展作は「熱パイプオルガン」です。これは長短九本のガラス管にヒーターを仕掛け、管内の空気が温まるにつれて発生する自然音をコンピュータを利用して音階に調律して「パイプオルガン」とし、これに「夕やけこやけ」のメロデーを演奏させたテープをつけたものです。添えられた論文には、生徒達自身で工夫したソフトをコンピュータにかけて、発生音の波形の解析をしたその過程が詳密に記述されており、審査員の先生方から大学院生並みの研究と激賞されたと聞いております。

全日本科学教育振興会及び読売新聞社共催のこの賞は、理科の甲子園と言われているもので、全国400校余りの高校からの出展作が各地区の選考を経て中央審査会にかけられその中から優秀作を選出するもので、本校では今まで東京都地区での最優秀校は何回も受けていながら、中央審査会の関門ではいつも涙を呑んできていました。

1月10日、京王プラザーホテルで常陸宮ご臨席のもとに表彰式が開かれ、翌11日には代表の佐々玲君と後藤教諭が皇居に招かれ天皇陛下にお目にかかっております。これらの模様は読売新聞やテレビに数回にわたり大きく報道されました。そのせいか、私学諸団体をはじめ各方面からの祝辞や表彰が相次ぎ、反響の意外な大きさに教職員一同うれしい驚きに包まれました。

☆三棟整備その後

前号でご報告した三棟の整備はすべて計画通り実現を見て、60年度からそれぞれの目的通り使用されております。特に英語・数学・理科・音楽等の選択授業の円滑な実施に大きく貢献しています。

昨年来、本校は私学教育研究所の委嘱を受けて理科の研究協力校になっておりますが、去る1月18日、新装の理科実験室及び教室を使って公開研究発表会を開きました。後藤教諭の指導になる手作りの実験器具を使った物理の実験授業が参加者の好評を博すと共に、教室に展示されアイデアに富む四十数種の手作りの実験機器が強い関心を呼びました。

現在、大学の5号館完成後に予定されている実験二棟一階部分の移管に備えて、食堂及びトレーニングルーム・ロッカールームの基本的な設計にとりかかっているところです。

☆部活動

自然科学の活躍については前述の通りですが、これに次いで目立つのは野球部の活躍です。甲子園を目指す地区予戦であれよあれよという間に、本校野球部創設以来という五回戦進出を果たし、一時はひょっとしてベスト8いやベスト4も夢ではないと思わせる勢いでした。惜しくも五回戦で敗退してしまいましたが、この活躍は近隣の中学生徒の相当な関心を集め、今年の入試には本校の野球部を目指す受験生も少なくないようです。

この他、自転車競技同好会が3年連続インターハイに出場して気を吐いております。予選参加校はまだ100余校と比較的少い種目ですが、それでも常時出場権を得るということは、日頃の地道な精進の成果が出ているのだと思います。

☆進学

現時点では工学院大学推薦内定者124名、同じく工学院大学専門学校推薦入学者26名が確定している程度で、他は入試結果の発表待ちというところです。

☆就職

半導体不況のあおりで途中一部に求人の見直しなどがあり、一時停滞が心配されましたが、その後持ち直して昨年末まで希望者87名全員の就職決定を見ております。そのうち上場企業は32％になります。59年度労働白書によると、千人以上の企業への就職率の平均は、大学生ですら30％強、高校生に至っては19％強程度であるのと比較するとかなり良好と言えるでしょう。主な就職先は下記の通りです。

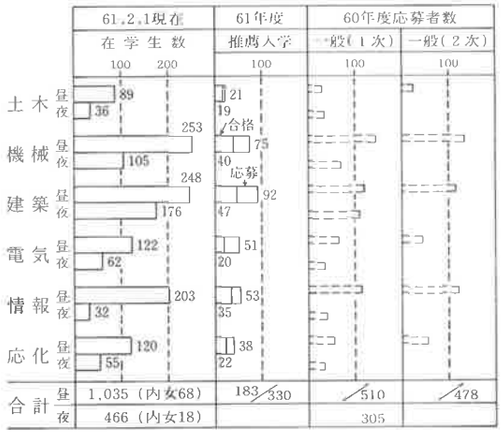
日本アイ・ビー・エム、日本電信電話、東芝、岩崎通信機、日本電気、日産自動車、日野自動車、本田技研工業、いすゞ自動車、日本ラヂエーター、日機装、小西六写真工業、ノリタケカンパニイ、オリエント時計など。

◇専門学校◇

☆来年度入学応募状況と在学生数

60年12月6日、昼間部推薦入学の面接試験を行い、付表のように330名の応募者から183名の入学が決っています。応募者は前年比142％でした。

今年の1月16日から一般入学願書の受付けを始めました。2月3日現在で、昼間部応募者217名（前年同日比128％）、夜間部応募者86名（前年同日比121％）です。



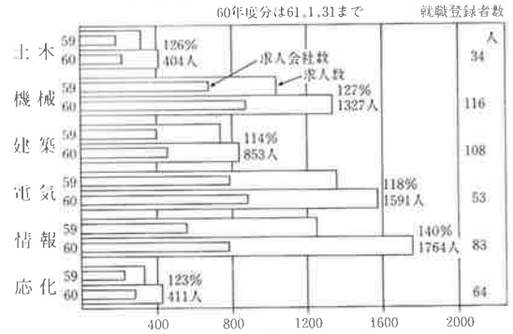
☆第38回製図展（60年11月）

本校の伝統行事を更に稔りあるものにしたいと、衆知をかり集めては改善に努めています。今回は会場を今までの4階から2階に移し、科別の展示室にして、科の特色を出すようにしました。ダムの模型、計算機の歴史、字書きロボットの実演、日本刀の研究なども展示されましたが、次回は之を更に拡大し、製図展を大作品展にして全科、全学生の参加を呼びかけることにしています。

☆求人、就職状況

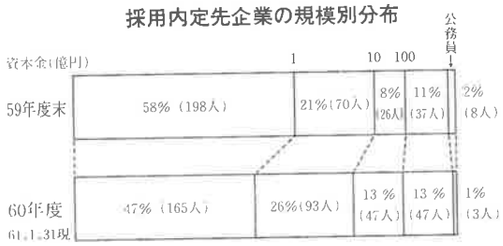
1月末現在で、求人数合計は 6,350人（前年度総数5,059人の126％）、求人会社数は3,628社で前年度比126％と、逐年増加し、且早期化しております。余科就職登録者数458名の約14倍の求人を頂いたことになります。尚造船、金属コースの人数は機械科に入っています。

各科別求人数（％は昨年比）



また1月末現在で355名の採用が内定しておりますがその分布を見ますと、大手企業が専門学校に眼を向けて来た様子を伺うことができます。

採用内定先企業の規模別分布



☆夜間部造船コース募集停止

本校の造船（科）コースは、専門学校・短大では日本で唯一のものであり、工手学校設立当初から今日まで、98年の伝統と1800名の優れた卒業生を有する特異な学科です。最盛期の昭和13年には、3月：39名、10月：41名と多くの卒業生を出したこともありましたが、最近の長期造船不況の努力には抗す術もなく、甚だ残念ながら、61年度から学生募集を停止することになりました。

○夜間部建築設備科開設

61年度から、造船コースに替るニューフェイスとして登場致します。社会のニーズをにらみ、それに即応できるのが、専門学校の強みです。

今や最先進国、経済大国の評価を受けることになったわが国が、今までの辛抱暮しから、快適な暮しを求めるのは自然の流れ、そうなると、今でも不足している建築設備技術者の需要は急増するであろう、と予測されます。ご声援をお願い致します。

訃　報

・元理事・鈴木貞次氏昭和61年2月24日逝去
・宮城県支部長・西沢忠志氏昭和60年5月6日逝去
・元副会長・山田良実氏昭和60年12月13日逝去

謹んで哀悼の意を表します。

賛助会費徴収のお願い

会長　足立剛一

本会員の皆様には、校友会事業活動に対し常々御協力御援助を賜り厚く御礼申し上げます。

校友会の活動充実の為の運用資金援助として皆様より賛助会費徴収をお願いしておりますが、59年1月の理事会にて規定の一部を下記の通り改め、より一層の御協力を頂きたく振込用紙を同封いたしましたのでよろしくお願い申し上げます。

記

賛助会費取扱い規定

本規定は定款第6条（賛助会員この法人の目的事業を後援し、5万円以上の寄付金を寄贈した者）の他本会員の賛助会費について定める。

第1条　賛助会費を次の条件で分納することができる。

1．毎年2000円以上を納入すること。
　（2000円を単位として増額できる）
2．合計が5万円以上になるまで毎年払いつづけること。

第2条　賛助会費は次のように使用する。

1．70％は積立てて目的を定めて理事会の承認を得て使用する。
2．30％は交付金として納入者の所属する支所へ交付する。

第3条　交付金は明細を年1回支部長に通知し支部長の請求により交付する。

別紙振込用紙にて会費を郵送して頂くことで、賛助会員の登録手続きをさせて頂きます。

□校友会各部会報告□

□総務部□

昭和60年度の校友会活動を理事会その他の活動を通じてご報告いたします。

第1回理事会(60・4・12)

議事　1.　59年度決算の件

　　2.　学園将来計画委員の件

第2回理事会（60・9・27）

議事　1.　次期役員改選の件

　　2.　学園の将来計画の件

　　3.　支部長会議の件

第3回理事会（61・1・24）

議事　1.　次期役員選出の件

　　2.　61年度事業計画案及び予算案承認の件

　　3.　賛助会費取扱い規定改訂の件

　　4.　職域支部承認の件（日本電気支部）

第4回理事会（61・3・19）

議事　1.　次期役員候補の件

　　2.　次期評議員集会開催の件（3/25）

　　3.　諸規程案の件

　　イ．経理規定及び同施行細則

　　ロ．校友会本部事務組織分掌規定

昭和60年度事務報告

1.　会議の開催状況は下記の通り。　　(回数)

評議員会	(60・5・26)	1
総　　会	(60・5・26)	1
評議員集会	(61・3・25)	1
支部長会	(60・10・6)	1
理　事　会		4
常任理事会		10
総務部会		3
財務部会		8
企画部会		1
広報部会		4
事業部会		2
組織部会		7
新年懇親会	(61・1・12)	1

この他，各種委員等が多数開催された。

□財務部□

①　賛助会員名簿作成の件

懸案であった賛助会員の名簿のコンピューター化も松山部員の骨折りで仕上がり、支部別から57年58年59年の3年間の個人別調査資料を作り、支部別に集計したものの資料、割戻金、人数、金額を作成、57年度は約180万円、58年度は約290万円、59年度は約267万円の賛助会費が入りましたが、そのうち30％を支部の活動費に当てますので、今後共多くの賛助会員の増加を計り、支部共々の発展を期待したい。

②　決算報告の件

社団法人として文部省よりの通達に基づき、監査を公認会計士に依頼(60年3月15日の理事会で承認)正式会計規準にて作成したものを4月8日会計監査を経て終了。

③　61年より大学2部学生募集停止に伴う会費収入減についての対策を研究。

④　校友会誌古文書保管の為の製本完成

⑤　第2／四半期決算　60年4月～9月

　賛助会員の現況

⑥　61年度予算編成について

⑦　賛助会費管理システムについて

　インプットする

　ファイル　1.会員番号　2.所在支部

　　3.会費累計（支部）　4.支部事務所所在

　　5.同電話　6.会員数　7.会員会費累計

　　8.最新の3年分の会費

　　9.交付金累計残高

⑧　賛助会費取扱規定改訂にて60年3月19日の理事会決定事項で交付を受ける請求期限は納入年度の翌年度より2年とする。

□企画部□

企画部会は発足以来、6回の会合を開催し、総論と各論の両方面から討論を進めた。

まず前者については、校友会のあり方にかかわるものであった。これについては部会の委員もそれぞれ個性的な意見があり、今後もたえず問いかけをしていく必要を感じている。後者に関しては、企画部自体の存在理由を明確にすることである。我々としては、企画部は学園の将来計画を含め、校友会にかかわる全ての問題を討論し、あわせて、企画自身のプランニングを行うことで意見が一致している。また昨年は、校友会活動の一環として、「学園将来計画を考える会」の設立を提案した。

新年度は以下の項目について議論を積重ねてゆきたい

1)　創立100周年記念事業について

2)　学園における教員の研究活動の助成について

3)　校友と教員の研究発表の活性化を援助する件

4)　新しい事業計画の立案

5)　創立100周年記念募金について

□事業部□

○新年懇親会報告

昭和61年度新年懇親会は1月12日（日旺日）午後1時より本大学の隣にある、京王プラザホテル「雅」の間に於て大学法人より高山理事長、北郷学長、専門学校の鈴木校長始め大学の理事、各科の主任教授、大学の後援会長、高等学校ＰＴＡ会長その他多数の諸先生の御来賓の出席を賜り、また多くの会員諸兄参加のもとに開催いたしました。当日は大学を始め御来賓、会員諸兄より多大な寄付をいただき感謝致します。懇親会に於ては高山理事長、北郷学長を始め多くの諸先生より学園の将来計画、大学の近況報告また各学科の紹介など有意義な話をしていただき御礼申し上げます。宴席中は先輩後輩が意気投合し旧知を温め、また各先生方を囲み昔話に花を咲せ、和やかなうちに新年会を終わらせた事は会員諸兄の御協力の賜ものと感謝し、御礼申し上げます。

□組織部□

昭和60年度全国支部長会議報告

昭和60年度の全国支部長会議は、10月6日本学で、22支部35名の支部長、副支部長が出席して開催された。

会議に先立ち、来賓として北郷学長、前島校友会長、足立並びに小高副会長の挨拶があった後「支部長会議のあり方」「各支部の現状と問題点について」「アンケート報告」を審議報告した。

「支部長会議のあり方」は、議長団から提案され、本会議は各支部長が一堂に会して自由に討議し、諸問題の解決をはかると共に支部組織全体の意見統一を行なう場である。したがって、本部機構の一部として存在するのではなく、支部組織の中心的存在として位置づけるのであるという趣旨が説明された。これに対し、各支部長からは本部と協力関係があってこそ円滑な活動ができるものであるからそれぞれが一体に協力関係を保持すべきである旨の意見が多数述べられた。

結果的には、今後の活動・あり方をとりまとめた「運用規則」を作成することになって議論を終了した。

「各支部の現状」では、支部総会を開催するに当たり、名簿の不整備、資金不足、会員の集まり不足等について意見や要望が述べられた。

これに対し、本部側から名簿は、最近電算化し整備したものを、資金は、第一回目のものに限り、はがき代等の一部の補助を考えており又会員の関心は、努力やＰＲ等が必要である旨を説明した。その他校友会長による推薦入学制度の設立が提案されたが、十分に議論されないままに終った。

「アンケート報告」は、各支部長に活動状況や、意見を求めたものの集計である。これによると、78支部ある中で、支部総会を行なっているものが約30％の25支部あり、その活動の中で資金、人、場所、時間等につき、各支部で御苦労されている状況が報告された。

支部長会議終了後は、各支部の今後の発展と友情を深めるべく、来賓を含めて懇親会を行なってから終了した。

○　　○

本支部長会は、私が担当させられた最初の大きな会議であった。この会議を立案から会議の開催まで、力不足ながら工夫をし、提案を行なって来たが、全体的にみて、会員相互が、それぞれの主張をそれぞれの場ではなさっておられるが、これを本学という一本の樹を中心に集まり、これを土台にして論議することが欠けているような気がした。私は、意見や議論はどんなものであってもよいと思っている。ただ最後には、これら議論を離れ、各支部長が、一歩発展して各会員が本学発展という樹に向かって一つになってほしいと思った。そのために我々に与えられたテーマの大きさをひしひしと思っている。

（組織部長・関戸　皎）

東北地区支部長懇談会報告

支部の活動状況を把握すると共に各支部長から直接に意見や要望を伺うために、11月２日、仙台市の宮城第一ホテルで東北地区支部長懇談会を開催した。

本懇談会には、青森を除き岩手、山形、秋田、宮城、及び福島の各支部長が参加され、本部からは、足立副会長、金尾、溝上及び関戸の組織担当部員が出席して行われた。

懇談は、足立副会長より本学の現状報告があった後支部の活性化は本学の育成発展に不可欠であるので協力してほしい旨の要望が述べられた。

これに対し、各支部長からは、名簿の不整備、資金不足、時間不足、その他広い地域の取りまとめの困難さが述べられた。これらの意見や要望は、全国支部長会で述べられたものと大略同じであるが、各地区により、人集め、資金集めに努力されていることもわかった。

懇談は、たくさんの意見の交流があったが、終始、意気投合して行われ、校友のこと、学校の思い出、若者のこと、子供のことなど留まるところがなく、予定の時間も大幅に過ごしてしまった。

本部担当者としても、当該地区の現状を概略ながら理解出来たし、これに基づいて、新たに組織活動の方向がとらえられたような気がする。

今後は、各支部は支部として、又本部は本部として改善を行いつつ、校友会活動の活性化のため検討をしていきたいと思う。

東京地区支部長懇談会報告

東京地区の各支部長と組織部員とで支部活性化等について懇談する機会を11月26日、本学校友会会議室で持った。これは本学を中心とする地区であり、強力な活性化が要求されているところであるため、先に開催した東北地区と同様な趣旨で行った。

案内通知は、23支部長（支部長不在又は不明の場合には副支部長）に送付した。これに対して何等かの形で連絡のあった支部長は13支部で、参加された支部は新宿、文京、江東、板橋、練馬、北、多摩川、八南の８支部に過ぎなかった。組織部からは足立、北林、酒井、溝上及び関戸が出席した。

懇談は、組織部から本会の趣旨を説明した後、特に、東京地区は本学を中心とする地元であり、この中心地区の活性化なくしては全国の支部活性は不可能である旨の御願いをした。これに対し参加支部長からは適当な指導者、幹事がないこと、資金、時間がないことが述べられた。

これら懇談の中で、八南の菊地支部長からは、『本会議の参加者が1/3なのは、組織部が本会議を成功させるために熱意がないからだ、これは反面、東京地区の各支部の活動が不十分なのは、支部長、副支部長の努力がたりない』という趣旨の批判が述べられた。我々として大いに傾聴しなければならないと思った。

懇談は、双方が自由に発言し、相互に問題点をつかむという形で進めたため、なごやかなうちに進められた。

結論的には、東京地区は、支部長、副支部長が明確でないところが多いので参加者の協力によに明確にして行き、判明した時点で、再度このような懇談を61年１月頃行うことで終了した。

□広報部□

○部長交代

60年度当初に，部長の木寺が勤務先（日清製油）の都合で大阪に転居され，その後を応化会より選出された大谷（大工化３回卒・高普１回卒）が引き継いだ。

○会報発行

年度途中の部長交代であるため、107号の編集では、記事内容は従来通りであるが、いささかでも新鮮さを出せればと思い、カラー印刷を取り入れた。

次号からは，校友会会長を始めとして，広報のメンバーや，各部会のメンバーも，新顔になったので，まず体裁を一新し，内容も時勢に対応出来るよう柔軟性を持たせる予定です。

資料収集についてのお願い

学園百年史編纂のため，工手学校等の学園の歩みを示す写真，パンフレットをはじめ，関係者の日記，記録，書翰などの基本的資料を網羅的に収集することにつとめております。

とくに，写真については，昭和64年には写真集を別冊として刊行する予定で，鋭意収集をすすめております。関係各位におかれても，これらの資料の収集にご協力下さいますよう，紙面をかりてお願いいたします。

学園百年史編纂室

学園の近況

広　報　部

校友会表彰等の報告

○成績優秀学生表彰

校友会では，昭和60年度成績優秀学生表彰式を昭和60年５月26日第29回総会において行った。

表彰者は下記の通り。

１．工学院大学

＜大学院＞

機械工学科専攻修士２年・松島聡

工業化学科専攻修士２年・村山晃

電気工学科専攻修士２年・那珂通明

建築学科専攻修士２年・西尾順文

＜学　部＞

機械工学科２年・石井靖人・植村好延・柏木利広

工業化学科２年・谷山聡

化学工学科２年・岩本亜記・中島康裕

電子工学科２年・宮本博敬

情報工学科２年・西山和成

建築学科２年・高信正和・冨永勉・原田正裕

２．工学院大学専門学校

機械科２年・加藤克己，建築科２年・西岡京子

建築科２年・十川美知子，応用化学科２年・今井茂

３．工学院大学高等学校

電気科３年・甲田秀，電気科２年・田端一雅

普通科２年・山崎学

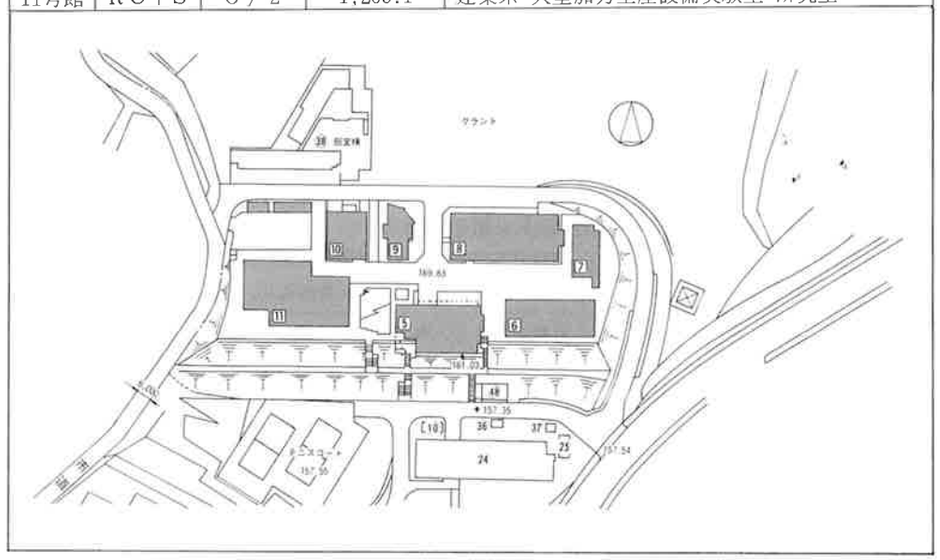
○叙　勲

本学名誉教授（電子工学科）西野治氏は昨年秋勲三等旭日中授章を受章，校友会より祝品を贈呈しました。

八王子校舎等の整備状況

現在建設中の５号館群の概要についてお知らせいたします。その完成予想図を表紙写真に掲載しました。現在着々と完成に近づいています。なお５号館群は５号から11号までの施設群のことで、概要は下図のとおりです。

建物	構　造	階　数	延床面積 ㎡	用　　途
５号館	ＳＲＣ	Ｂ１／９	5,956.2	電気系・電子系・化学系実験室 研究室 エネセン
６号館	Ｒ　Ｃ	Ｏ／１	464.7	機械系 大実験室
７号館	Ｒ　Ｃ	Ｏ／１	206.4	化学系 実験室 研究室
８号館	Ｒ　Ｃ	Ｏ／３	1,784.1	機械系 実験室 研究室
９号館	Ｒ　Ｃ	Ｏ／２	224.3	建築系・電気系 音響実験室
10号館	Ｒ　Ｃ	Ｏ／２	322.9	電気系 高電圧実験室
11号館	ＲＣ＋Ｓ	Ｏ／２	1,205.1	建築系 大型加力生産設備実験室 研究室



社団法人　工学院大学校友会　第40回評議員会 第30回総会　開催お知らせ

会長　足立　剛一

日　時　昭和61年5月25日（日）13時～17時
場　所　工学院大学第1会議室（新館8階）
議　案　（資料参照）
第1号　昭和60年度事業報告並びに収支決算報告承認の件
第2号　昭和60年度財産目録承認の件
　　◎監査報告
第3号　昭和61年度事業計画(案)並びに収支予算（案）
　　承認の件

（注）1．**本誌に同封の郵便はがきにより、折返し出欠の有無をご回答下さい。**
2．施行細則第10条により、当該議事について意志表示のない場合は、同意の意志表示とみなして、出席者数に加えることができますのであらかじめご了承下さい。

昭和60年度事業報告書

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成（定款第5条第1項）	1．学校法人工学院大学と協議の上で援助した。　2．学園将来計画に協力した。　3．記念事業に協力した。
学校に在籍する学生、生徒の学修活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成（定款第5条第2項）	1．学生、生徒の研修援助 優秀な学生を各学校毎に表彰した。
会誌および学術図書の刊行（定款第5条第3項）	1．校友会々報の発行　2．会員名簿の刊行準備を行った。 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成。
学術に関する講演会および見学会等の開催（定款第5条第4項）	1．学術講演会や見学会を開催した。
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要なる施設の設置（定款第5条第5項）	1．校友会諸設備および校友会館の建設 校友会事務室、会議室等を整備し、将来校友会館を建設するための具体的計画を促進した。 2．懇話会等の開催　新年懇親会等を開催した。 3．支部の支援　支部長会議を機能化し、支部組織の活性化を図った。
学校の行なう就職あっせんおよび紹介に関する援助（定款第5条第6項）	1．就職あっせん、事業紹介等を行なった。
その他目的を達成するために必要な事業（定款第5条第7項）	

昭和60年度収支決算書

（自 昭和60年4月1日
至 昭和61年3月31日）

支出の部

科目	予算（千円）	決算（円）	差異（円）
事業費	5,072	4,233,460	838,540
学園協力費	1,100	600,000	500,000
会報・出版費	1,200	1,289,980	△ 89,980
学生・生徒奨励金	483	483,000	0
支部対策費	1,100	1,089,240	10,760
総会等大会費	100	30,000	70,000
広報部費	100	3,030	96,970
組織部費	572	539,750	32,250
事業部費	217	64,160	152,840
企画部費	200	134,300	65,700
人件費	4,220	4,021,916	198,084
給与・手当	2,546	2,449,610	96,390
臨時給与	1,440	1,354,395	85,605
福利厚生費	34	17,911	16,089
退職給与引当金繰入	200	200,000	0
運営費	6,960	5,478,990	1,481,010
本部会議費	500	447,120	52,880
役員交通費	600	374,420	225,580
総務部費	100	88,200	11,800
旅費・交通費	130	11,740	118,260
通信費	4,320	3,289,340	1,030,660
事務用品費	1,000	1,080,940	△ 80,940
修繕費	20	0	20,000
振替手数料	20	37,810	△ 17,810
対外費	50	25,000	25,000
慶弔費	160	79,000	81,000
公租公課	10	15,630	△ 5,630
雑費	50	29,790	20,210
予備費	2,000	542,940	1,457,060
支出計	18,252	14,277,306	3,974,694
次期繰越収支差額	12,480	21,755,280	△9,275,280
支出総合計	30,732	36,032,586	5,300,586

収入の部

科目	予算（千円）	決算（円）	差異（円）
会費収入	27,852	27,852,250	250
会費収入(機)	4,938	4,938,000	0
会費収入(化)	3,506	3,506,000	0
会費収入(電)	5,957	5,957,000	0
会費収入(建)	4,448	4,448,000	0
会費収入(高)	4,230	4,230,250	250
会費収入(専)	4,773	4,773,000	0
賛助会費収入	2,600	2,106,000	△ 494,000
広告収入	100	62,000	△ 38,000
出版等収入	0	0	0
受取利息・配当	100	5,984,856	5,884,856
寄付金収入	30	3,000	△ 27,000
雑収入	50	24,480	△ 25,520
収入総合計	30,732	36,032,586	5,300,586

（注）予備費　1.賛助会費戻金 542,940円　△は予算超・減

昭和60年度　財産目録（昭和61年3月31日現在）

科目	金額（円）		
資産の部			
流動資産			
現金		223,761	
振替貯金		6,040	
普通預金			
第一勧銀新宿西口支店 (1)	2,780,677		
〃 (2)	251,177		
東海銀行新宿新都心支店 (1)	1,416,389		
〃 (2)	833,060	5,281,303	

科　　目	金　額（円）		
有価証券			
中期国債ファンド		1,117,502	
流動資産合計			6,628,606
固定資産			
什器備品		111,800	
電話加入権		30,000	
基本財産引当預金			
商工中金普通預金	175,583		
商工中金利付商工債券	6,360,000	6,535,583	
長期預金			
退職給与引当有価証券	1,518,086		
賛助会費引当有価証券	8,337,023		
終身会費引当有価証券	7,500,795	17,355,904	
投資有価証券			
日興証券債券		100,000,000	
固定資産合計			124,033,287
資産の部合計（A）			130,661,893
負債の部			
固定負債			
在学生会費預り金		80,081,390	
退職給与引当金		1,514,700	81,596,090
負債の部合計（B）			81,596,090
正味財産（C）＝A－B			49,065,803

昭和61年度事業計画（案）

事業に関する定款条文	事　業　内　容
学校の教育施設の改善に関する助成（定款第5条第1項）	1．学校法人工学院大学と協議の上で援助する。　2．学園将来計画に協力する。
学校に在籍する学生、生徒の学修活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成（定款第5条第2項）	1．学生、生徒の研修援助 優秀な学生には各学校毎に表彰する。
会誌および学術図書の刊行（定款第5条第3項）	1．校友会々報の発行　2．会員名簿の刊行 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成。
学術に関する講演会および見学会等の開催（定款第5条第4項）	1．学術講演会や見学会を開催する。
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要なる施設の設置（定款第5条第5項）	1．校友会諸設備および校友会館の建設 校友会事務室、会議室等を整備し、将来校友会館を建設するための具体的計画を促進し、実行するよう努力する。 2．懇話会等の開催　全国大会、新年懇親会等の開催。 3．支部の支援　支部長会議を機能化し、支部組織の活性化を図る。
学校の行なう就職あっせんおよび紹介に関する援助（定款第5条第6項）	1．就職あっせん、事業紹介等を行なう。
その他目的を達成するために必要な事業（定款第5条第7項）	1．学校法人工学院大学創立百周年記念事業に協力する。

昭和61年度予算書（案）

（自 昭和61年4月1日
至 昭和62年3月31日）

支出の部

大科目	中科目	金額	前年度予算	増減
事業費		7,469	5,072	2,397
	学園協力費	1,600	1,100	500
	会報出版費	1,400	1,200	200
	学生奨励金	483	483	0
	支部対策費	1,726	1,100	626
	総会等大会費	600	100	500
	広報部費	320	100	220
	組織部費	130	572	－ 442
	事業部費	210	217	－ 7
	企画部費	200	200	0
	賛助会費戻金	800	0	800
運営費		7,711	6,860	851
	本部会議費	673	500	173
	役員交通費	600	600	0
	旅費交通費	200	130	70
	通信費	4,276	4,320	－ 44
	事務用品費	1,462	1,000	462
	修繕費	0	20	－ 20
	賃借費	150	0	150
	振替手数料	50	20	30
	対外費	50	50	0
	慶弔費	100	160	－ 60
	公租公課	100	10	90
	雑費	50	50	0
人件費		5,864	4,300	1,644
	給与手当	2,732	2,626	186
	臨時給与	2,882	1,440	1,442
	退職手引当金	200	200	0
	福利厚生費	50	34	16
固定資産支出		1,500	0	1,500
	設備造作	1,500	0	1,500
積立預金支出		12,000		12,000
	会館積立金	10,000		10,000
	賛助会積立金	2,000		2,000
予備費支出	予備費	2,364	2,000	364
次期繰越収支差額			12,500	
合計		36,908	30,732	6,176

収入の部

（－は減　単位：千円）

大科目	中科目	金額	前年度予算	増減
基本財産収入				
会費収入	利息収入	350		350
		30,558	30,452	106
	機械	4,018	4,938	－ 920
	応化会	2,929	3,506	－ 577
	電気	4,622	5,957	－1,335
	建築	3,550	4,448	－ 898
	高校	5,010	4,230	780
	専門	7,629	4,773	2,856
	賛助会費	2,800	2,600	200
寄附金収入	寄附金収入	100	30	70
事業収入	広告収入	0	100	－ 100
雑収入		5,900	150	5,750
	受取利息	5,850	100	5,750
	雑収入	50	50	0
合計		36,908	30,732	6,176

校友会役員

自 61.4.1　至 64.3.31

会長　足立剛一
副会長（総務担当）　山崎隆一
〃（財務担当）　内山太
〃（企画担当）　榎本忠良
〃（広報担当）　南迫哲也
〃（事業担当）　宮所良二
〃（組織担当）　森山健次
監事　戸部英瑞
〃　菊池誠
〃　長嶋秀世
総務部部長　関戸皎

総務部理事　永島正義
〃　片岡国平
〃　織野善夫
〃　伊藤真治
〃　宮沢正義
〃　住野和男
財務部部長　大柳康
財務部理事　武笠忠
〃　丹羽宏之
〃　松山守也
〃　篠原梅吉
〃　清水利治
〃　丸山篤

企画部部長　小高鎮夫
企画部理事　朝山邦夫
〃　間宮真佐人
〃　蓮池嘉和
〃　北沢興一
〃　高橋孝治
〃　古橋良光
広報部部長　大谷一夫
広報部理事　小島孝治
〃　石川徹
〃　佐藤晃市
〃　愛川高朗
〃　中島孝明
〃　伊藤喜章

事業部部長　南雲芳夫
事業部理事　八木平八郎
〃　山田文昭
〃　根岸照雄
〃　宮崎勝弘
〃　山本清
〃　金子拓四郎
組織部部長　吉岡暘一
組織部理事　小野塚政雄
〃　溝上俊治
〃　恒松良一
〃　金尾武彦
〃　酒井史生
〃　佐合道也

学園発祥の地記念碑移築成る

昭和31年（1956）11月３日工学院大学学園発祥の地たる東京都中央区小田原町１－14に記念碑の除幕式が行われた。その後同所の建物が建替えられることになり記念碑を一時撤去保管し工事の完成を待っていました。昭和60年４月11日同建物が完成し保管中の記念碑を再び同所（以前のところより南東の端に移動した。このところが工手学校の正門に当るところと言われている）に設置して昭和60年（1985）４月22日修祓式を挙行した。

事務局　横関彰一

移築成った記念碑

第三十四巻　第一号
昭和六十一年四月二五日発行
編集兼発行人　大谷一夫
〒104 東京都中央区入船一－五－一一
印刷所　弘報印刷株式会社
電話（552）九七三一
発行所　社団法人　工学院大学校友会
東京都新宿郵便局私書箱第十三号
東京都新宿区西新宿一－二四－二
電話　〇三（342）二〇六四番
振替東京九一一〇八番
〒一六三－九一